

2026 年度第 1 回評議員会

2025 年度

事業報告

一般財団法人 語学教育研究所

2026 年 6 月 20 日

事業報告

I 法人の概況

1. 設立年月日 1923（大正 12）年 5 月 1 日

2. 定款に定める目的

この法人は、外国語教育に関する調査研究に基づき、外国語教育の方法等の改善策を策定し、その普及を図り、もってわが国における外国語教育の発展に寄与することを目的とする。

3. 定款に定める事業内容

この法人は、次の各号の事業を行なう。

- (1) 外国語教育の振興に関する研究ならびに実験
- (2) 外国語教育に関する調査
- (3) 外国語教育の改善に必要な施設の運営
- (4) 外国語教育に関する資料等の編纂作成、刊行ならびに外国語教育に関する雑誌等の発行
- (5) 外国語教育の振興に関する各種会合の開催
- (6) その他目的を達成するために必要な事業

4. 所管官庁に関する事項

（該当事項はない）

5. 会員の状況

種類	当期末	前期末	前期末比増減
一般会員	354 名	346 名	+8 名（学生会員を含む）
学校会員	24 校	26 校	-2 校
賛助会員	8 社	9 社	-1 社
合計	386	381	+5

6. 主たる事務所の状況

事務所 東京都荒川区西日暮里 6-36-13 サザンパレス西日暮里 102 号室

（平成 26 年 11 月 16 日移転。旧住所：東京都文京区本郷一丁目 35 番 28 号 メゾンドール本郷 901 号室）

7. 役員等に関する事項

役職	氏名	常勤・非常勤の別	担当職務・現職
所長	伊藤雄二	非常勤	大東文化大学・教員
理事長	大内由香里	非常勤	
常務理事	手島 良	非常勤	武蔵高等学校中学校・教員
理事	入江 潤	非常勤	サステイナブル教育開発機構 educore・代表
理事	小菅敦子	非常勤	
理事	千田 享	非常勤	埼玉県立浦和西高等学校・教員
理事	永井淳子	非常勤	田園調布雙葉小学校・教員
理事	馬場千秋	非常勤	帝京科学大学・教員
理事	町田協子	非常勤	東洋英和女学院小学部・教員
理事	松原木乃実	非常勤	聖マリア小学校・教員
理事	松原知子	非常勤	成蹊大学・教員
理事	望月正道	非常勤	麗澤大学・教員
理事	矢田理世	非常勤	筑波大学附属高等学校・教員
理事	山崎 勝	非常勤	埼玉県立和光国際高等学校・教員
理事	吉田章人	非常勤	日本女子大学附属高等学校・教員
監事	浅野伸子	非常勤	東京都立小山台高等学校・教員
監事	草間浩一	非常勤	武蔵高等学校中学校・教員
評議員	砂谷恒夫	非常勤	東洋学園大学等・教員
評議員	四方雅之	非常勤	
評議員	相田眞喜子	非常勤	田園調布雙葉小学校・教員
評議員	及川 賢	非常勤	埼玉大学・教員
評議員	粕谷恭子	非常勤	東京学芸大学・教員
評議員	久保野りえ	非常勤	都留文科大学等・教員
評議員	佐川靖子	非常勤	埼玉県川口市立芝西中学校陽春分校・教員
評議員	杉内光成	非常勤	早稲田大学本庄高等学院・教員
評議員	鈴木文也	非常勤	高崎健康福祉大学・教員
評議員	栖原 昂	非常勤	筑波大学附属中学校・教員
評議員	中山健一	非常勤	桐朋中学高等学校・教員
評議員	八宮孝夫	非常勤	筑波大学附属駒場中・高等学校・教員
評議員	日高由美子	非常勤	東京都立桜修館中等教育学校・教員
評議員	福島玲枝	非常勤	畿央大学・教員
評議員	福永堅吾	非常勤	東京都立産業技術高等専門学校・教員
評議員	山本智恵子	非常勤	白百合学園中学高等学校・教員
評議員	若有保彦	非常勤	秋田大学・教員

8. 職員に関する事項

職員数	前期末比増減	年齢	勤続年数
男子 0 名	±0	該当なし	該当なし
女子 1 名（非常勤*）	±0	59 歳 6 ヶ月	17 年 2 ヶ月**週 4 日勤務（うち 3 日在宅勤務）

9. 許認可に関する事項

（該当事項はない）

II 事業の状況

1. 事業の実施状況

語学教育に関する研究発表大会の開催

2025 年度研究大会

2025 年 11 月 23 日 対面開催 （参加者数 171：一般 108 学生 63）

全体会 I

- ・開会式
- ・会員総会

協議会 I

- ・指導法研究《第 3 研究グループ》：ペア・ワーク （参加者数 39）
司会・解説者：小菅 和也（武蔵野大学名誉教授）
発表者：山崎 勝（埼玉県立和光国際高等学校）
- ・パーマー研究《第 6 研究グループ》：パーマーに学ぶ授業の進め方-acoustic image 形成のためのドリルを考える （参加者数 43）
司会者：浅野 伸子（東京都立小山台高等学校）
発表者：久保野 りえ（都留文科大学） 栖原 昂（筑波大学附属中学校）
山本 智恵子（白百合学園中学高等学校）
- ・中学高校英語研究《第 26 研究グループ》：高校 1 年生の授業-The same material, different Teachers- （参加者数 53）
司会者：鈴木 文也（高崎健康福祉大学）
発表者：高橋 淳（兵庫県立兵庫高等学校） 長堀 巧（千葉県立野田中央高等学校）

協議会 II

- ・会員発表 （参加者数 38）
司会者：北出 義伸（立正大学付属立正中学校高等学校）
① 小学校英語における「質問—応答型の文練習」の理論的考察—復唱・暗記の saying から、意図的発話の speaking へ—
発表者：美留町 美希子（東京都品川区立中延小学校）

②「英語コミュニケーションⅠ」におけるプロジェクト—高校の教科書を工夫して効果的な発表を促す—

発表者：下山 宣子（東京都立多摩科学技術高等学校）

③高校2年「英語コミュニケーションⅡ」の授業における「思考力・判断力・表現力」の育成を目指した生成AIを活用したライティング活動

発表者：宮崎 遼（駒沢学園女子高等学校）

④大学生の英語学習—目標設定と振り返りによる行動促進の授業デザイナー—

発表者：澁井 とし子（東京福祉大学）

・授業研究《第5研究グループ》：「英語コミュニケーションⅡ」生徒とのやり取りを重視した授業改善の記録（参加者数 58）

司会者：小宮山 紗智（成蹊中学・高等学校）

授業者：荘司 竜斗（成蹊中学・高等学校）

助言者：福島 玲枝（畿央大学）

・小学校英語教育研究《第10研究グループ》：指導者とのやり取りを通して育てる英語を使う力～子どもが聞きたくなる・話したくなる指導の工夫～（参加者数 53）

司会者：渡部 尚美（産業能率大学）

発表者：川副 理美（田園調布雙葉小学校）来住野 実咲（東京都小平市立小平第十一小学校）

村田 依玖美（東京都港区立東町小学校）

全体会Ⅱ

・贈賞式： パーマー賞：該当なし

外国語教育研究賞：高杉 達也（筑波大学附属中学校）

若林俊輔奨励賞：坂井 峻也（兵庫県神戸市立葺合高等学校）

・公開授業「中学1年生の授業」

授業者：栖原 昂（筑波大学附属中学校）

一般会場（参加者数 84）

司会者：市林 竜（北海道教育大学附属釧路義務教育学校）

解説者：久保野 雅史（神奈川大学）

学生会場（参加者数 39）

司会者：日高 由美子（東京都立桜修館中等教育学校）

解説者：久保野 りえ（都留文科大学）

・閉会式

語学指導法に関する英語教員向けの講習会の開催

参加費：会員 3000 円、非会員 5000 円(年度初期費用 2000 円)

W：授業作りワークショップ

P：パーマー賞受賞者に学ぶ極意

A：ア・ラ・カルト講座

日 時		種類	内容・タイトル	講 師	方法	申込数
1	4月29日(火祝)	A1	中学校英語の基盤となる小学校英語での学び～「聞いて、やり取り」をし、「読めることを、書こうとする」子どもたち～	久埜 百合	OL	18
2	5月3日(土祝)	P1	英語の発音リズムと音連結を中心にー	小菅 和也	OL	9
3	5月31日(土)	A2	小学校英語教育に必要な指導技術	粕谷 恭子	OL	29
4	6月7日(土)	P2	中学生のための言語活動とOral Introduction	伊藤 雄二	対面	12
5	6月21日(土)	A3	コミュニケーション活動を楽しむ ～英語を「学ぶ」から「使う」へ～	及川 賢	OL	8
6	6月22日(日)	W1	学びを支える指導者と子どもとの「やり取り」	永井淳子・町田協子	対面	5
7	6月29日(日)	A4	『音読の教科書』の著者による生コーチング	静 哲人	対面	9
8	7月12日(土)	P3	高校：アウトプット活動とその指導手順	矢田 理世	OL	10
9	7月19日(土)	A5	教科書単元を用いた要約文作成における段階的指導(高校)	北出 義伸	OL	8
10	7月25日(金)	P4	デジタルツール活用時代の英語教師の役割について ～Teacher Talkをupdateしよう～	津久井 貴之	OL	10
11	7月26日(土)	W2	授業づくりの基礎・基本ーOral Introduction の考え方	小菅 和也	対面	2
12	7月27日(日)	W3	中学校の英語指導(導入から言語活動まで)	小菅 敦子	対面	4
13	8月1日(金)	W4	高校の授業における文法事項の導入	吉田 章人	対面	5
14	8月2日(土)	A6	フォニックス活用法ー英単語の綴りの教えかた	手島 良	OL	9
15	8月5日(火)	A7	文法指導に役立つ音声指導	久保野 雅史	対面	3
16	8月12日(火)	A8	対話で変える授業づくり ー生徒の思考と学びを深める授業改善のポイント	福島 玲枝	OL	13
17	8月17日(日)	W5	子どもたちとやり取りしながら進める授業(中学年)	相田 真喜子・川副 理美	対面	5
18	8月17日(日)	W6	授業に取り入れたい文字遊び・歌やライム	石田 裕子・渡辺 麻美子	対面	4
19	8月20日(水)	A9	(外国語教育研究賞『英語ディベート入門』) 思考力・表現力を鍛えるための英語授業 ～英語ディベートのエッセンスを活用した論理・表現～	河野 周	OL	7
20	8月23日(土)	W7	音声導入からリテリングへ	日高 由美子	対面	2
21	8月24日(日)	A10	音読活動をどう展開していくのか	江原 一浩	OL	5
22	8月30日(土)	A11	批判的思考力の育成ー若林俊輔先生の教材研究をヒントに	若有 保彦	OL	3
23	9月6日(土)	W8	初心者集まれ！初めてのオーラル・イントロダクション！	伊藤 雄二	対面	3
24	9月14日(日)	A12	生きる力を育てる英語の授業	望月 正道	OL	4
25	9月21日(日)	A13	パフォーマンステストのWHATとHOW	根岸 雅史	対面	9
26	9月28日(日)	W9	子どもたちとやり取りしながら進める授業(高学年)	永井 淳子・松原 木乃実	対面	5
27	10月5日(日)	A14	中学英語～教科書題材の活用について～	石川 ひろみ	対面	4
28	10月26日(日)	A15	生徒の思考を深める発問と活動の工夫	鈴木 文也	OL	9
29	11月3日(月祝)	W10	題材内容中心のOral Introduction	山崎 勝	対面	5
30	12月21日(日)	W11	発表につなげるための Oral Introduction	浅野 伸子	対面	6
31	12月26日(金)	A16	(外国語教育研究賞『リテリングを活用した英語指導』) リテリング指導：基礎から発展まで	佐々木 啓成	対面	4
32	1月17日(土)	P5	筑波大附属中学校の英語教育	筑波大附属中英語科	OL	27
33	1月25日(日)	A17	授業を生かすテストづくりー指導と評価の一体化を目指してー	山本 智恵子	OL	13
34	2月8日(日)	W12	Oral Introductionからやり取り、そしてWritingへ	千田 享	対面	4
35	2月15日(日)	A18	学習者の多様性に対応するための英語授業でのICT活用術	草間 浩一	OL	9
36	2月22日(日)	P6	英語が溢れる授業づくりー3年間を見通した指導計画の作成及び年度初めの準備とテストづくり	松下 信之	OL	17
37	3月7日(土)	P7	英語教師裏街道：節目節目で大切にしてきたこと	吉澤 孝幸	OL	10
38	3月21日(土)	W13	英語でのやり取りを通した文法の導入から教科書を活用した言語活動まで	栖原 昂	対面	5
39	3月29日(日)	W14	新学期、最初の授業で大切にしたいこと	松原 木乃実・渡辺 麻美子	対面	5

語学教育に関する研究活動

1. 研究グループ等の活動（オンラインと対面の併用で、概ね月 1 回～2 回研究会を実施した。）

第 3 研究グループ《指導法研究》

英語の授業を英語で行うための指導法を研究した。教科書の扱い方、指導手順、導入法などについて、基礎から検討を進めた。

第 5 研究グループ《授業研究》

ビデオによる授業研究を行った。公募した 1 名の授業者の授業を数回ビデオに録って、その都度検討し、授業改善を目指した。授業改善の過程と成果は、研究大会で発表した。

第 6 研究グループ《パーマー研究》

The Oral Method の提唱者 Harold E. Palmer の著作の原典輪読を基本とし、その内容に関する理解や実践の共有や、指導の実演練習などを行なった。

第 10 研究グループ《小学校英語教育研究》

子どもの言語習得のプロセスを踏まえて、小学校における英語の指導内容と指導方法を検討した。あわせて、中学校以降の英語学習の基礎を作る小学校英語教育のあるべき姿を追求し、小・中の連携なども視野に入れた研究も進めた。

第 22 研究グループ《談話文法研究》

文脈や情報構造とそれを取り巻く音声などを視野に入れ、英語教育に関連した談話文法を、主に文献講読を通じて理論構築を行い、実践への応用に取り組んだ。

第 26 研究グループ《中学高校英語研究》

中学・高校での授業実践を対象に、メンバーが持ち寄る授業ビデオや教材を通して、指導法や教材の検討を行なった。研究大会では同じ教材を 2 名の教師が授業する様子を発表した。

小中連携研究会

2024 年 8 月に、小学校と中学校の指導や学びの連携を深めることを意図して立ち上げた研究会。メンバーは研究員を基本とし、会員の参加も可。将来的に研究グループとして語研大会などで発表・提言できるよう研究を進めている。

形態と頻度：毎月 1 回 90 分 zoom で実施

開催日程：4/6 5/4 6/1 7/6 9/7 10/5 12/7 1/11 2/1 3/1（2025 年度）

研究内容：検定教科書の分析、小中における指導の手順や方法の比較など。

2. 読書会

隔月を基本とし、以下 6 回オンラインで開催した。人数は予約数。

(1) 2025 年 5 月 24 日(土) 6 名

『ライティングのための英文法』萩野俊哉(著)、ロバート・ジュペ英文校閲、大修館書店

(2) 2025 年 7 月 26 日(土) 8 名

『日本人とリズム感』樋口桂子(著)、青土社

- (3) 2025 年 9 月 27 日(土) 8 名

『生成 AI スキルとしての言語学 誰もが「AI と話す」時代におけるヒトとテクノロジーをつなぐ言葉の入門書』佐野大樹(著)、かんき出版

- (4) 2025 年 12 月 13 日(土) 8 名

『言語学でスッキリ解決!英語の「なぜ?」』井上 逸兵・堀田 隆一(著)、ナツメ社

- (5) 2026 年 1 月 31 日(土) 12 名

『英文読解を科学する テキスト理解の認知メカニズムに基づく読解指導』細田雅也(著)、大修館書店

- (6) 2026 年 03 月 21 日(土) 10 名

『ルポ 誰が国語力を殺すのか』石井光太(著)、文春文庫/文藝春秋社

3. オープンセミナー

研究グループからの発表と、研究員座談会(GOKEN RADIO)を、共にオンラインで開催した。1～4 の人数は予約数、5～6 は当日の参加者数。

- (1) 2026 年 3 月 8 日(日) 16 名

「授業の舞台裏を語る ― 語研大会発表授業をもう一度 ― 」

中学高校英語研究グループ [第 26] 高橋 淳(兵庫県立兵庫高等学校)

長堀 巧(千葉県立野田中央高等学校) 鈴木 文也(高崎健康福祉大学)

- (2) 2026 年 3 月 20 日(金祝) 17 名

「ハロルド E. パーマーの the Oral Method とは」

パーマー研究 [第 6] 栖原 昂(筑波大学附属中学校) 木村 祐太(金沢市立西南部中学校)

- (3) 2026 年 3 月 22 日(日) 23 名

「CEFR (Common European Framework of Reference for Languages) の基本を学ぶ」

CEFR 研究グループ [第 28] (2026 年 4 月発足) 工藤 洋路(東京外国語大学)

- (4) 2026 年 3 月 22 日(日) 20 名

「授業研究：授業者からの本音トーク」

授業研究グループ [第 5] 荘司 竜斗(成蹊中学・高等学校) 福島 玲枝(畿央大学)

- (5) 2026 年 2 月 15 日(日) GOKEN RADIO 1 20 名

テーマ：「授業準備 何をどこまで？」

ゲスト：浅野 伸子 石川 ひろみ 鈴木 文也 聞き手：矢田 理世

- (6) 2026 年 3 月 28 日(土) GOKEN RADIO 2 30 名

テーマ：「英語力向上のために何をしていますか？」

ゲスト：市林 竜 佐藤 令子 福島 玲枝 聞き手：矢田 理世

語学指導法に関する学生向けの講習会の開催（学生研修室）

対面セミナー1回、オンラインセミナーを3回実施した。

第1回 2025年4月27日 14:00～16:00 「教育実習に行く前に（実習生を送り出す立場から）」

講師：及川 賢（オンライン 参加者数 46名）

第2回 2025年5月18日 10:00～12:00 「授業で使う Teaching Materials の作り方」

講師：杉内 光成（オンライン 参加者数 10名）

第3回 2025年10月12日 14:00～16:00 「授業づくりワークショップ」

講師：鈴木 文也、田島 拓弥（オンライン 参加者数：14名）

第4回 2025年2月22日 14:00～16:00 「Oral Introduction を行うための授業準備（高校）」

講師：佐々木 貴久（対面：語研オフィス 参加者数：6名）

小学校外国語教育委員会の活動

2025年度よりこれまでのオンライン講習会に替えて、11月を除く毎月1回(全11回)の「小学校英語研修会」を実施した。

①4月6日(日)13:00～14:30

「聞く力を伸ばす」「話す力を伸ばす」話しかけ方の工夫

担当：相田 眞喜子（申込 32名 うち会員 27名 非会員 4名 学生 1名）

②5月4日(日)13:00～14:30

「歌やライム」を授業に取り入れよう ～英語らしい音が染みこむように～

担当：相田 眞喜子（申込 25名 うち会員 23名 非会員 2名 学生 0名）

③6月1日(日)13:00～14:30

子どもと言葉を使い合いながら進める授業

～3年生から6年生まで使用頻度の高い“have”などの動詞を中心に～

担当：渡辺 麻美子（申込 24名 うち会員 22名 非会員 2名 学生 0名）

④7月13日(日)13:00～15:00

子どもと英語を使い合うこと ～英語のルールに、子どもが気づいていく「やり取り」の方法～

担当：久埜 百合（申込 31名 うち会員 28名 非会員 3名 学生 0名）

⑤8月3日(日)13:00～15:00

「読むこと」⇒「読めること」から「書くこと」に向かう 習熟を支える「4技能」の指導

担当：久埜 百合（申込 32名 うち会員 22名 非会員 10名 学生 0名）

⑥9月7日(日)13:00～14:30

子ども達は英語で過去のことだって話したい ～過去時制との出会わせ方の提案～

担当：相田 眞喜子（申込 30名 うち会員 25名 非会員 5名 学生 0名）

⑦10月5日(日)13:00～14:30

「いくつ?」「いつ?」「どこ?」 状況を詳しく説明したいときの言い方に慣れる

担当：渡辺 麻美子（申込 24名 うち会員 22名 非会員 2名 学生 0名）

⑧12月7日(日)13:00～15:00

「Small Talk」でできること 1) 授業の始まりで 2) 授業の後半で

担当：久埜 百合（申込 32名 うち会員 24名 非会員 8名 学生 0名）

⑨1月11日(日)13:00～15:00

子どもが、英語でも言ってみたいことを、言えるように

～やりたいこと・やりたくないこと・総復習を前にして～

担当：久埜 百合（申込 19名 うち会員 16名 非会員 3名 学生 0名）

⑩2月1日(日)13:00～14:30

指導した表現を使い合う応用段階の指導:「子ども同士のやり取り」こんなふうにおすすめしてみては?

担当:渡辺 麻美子 (申込 31名 うち会員 26名 非会員 5名 学生 0名)

⑪3月1日(日)13:00～14:30

新年度に備えて準備しておきたいこと ～改めて「音声」の大切さについて考える～

担当:相田 眞喜子 (申込 34名 うち会員 32名 非会員 2名 学生 0名)

出版物

『語研ジャーナル』第24号発行(2025年11月23日)

雑誌連載

大修館書店『英語教育』「国内論文紹介」

2. 重要な契約に関する事項

(該当事項はない)

3. 役員会等に関する事項(理事会・評議員会・総会等)

【理事会】※すべてZoomによるオンラインで開催した。

	開催日	主な議事事項
第1回理事会	4月13日(日)	講習会予定、出張講師制度、研究員募集について、ほか
第2回理事会	5月11日(日)	事業報告、研究員応募、事務室の鍵管理、スターター制度について、ほか
第3回理事会	6月8日(日)	事業報告、決算、研究大会運営委員会、評議員会、スターター制度について、ほか
第4回理事会	7月13日(日)	規程集改訂、研究大会、出張講師制度、人事について、ほか
第5回理事会	8月10日(日)	研究大会、会員総会、次期人事について、ほか
第6回理事会	9月19日(金)	研究大会、会員総会、三賞審査結果について、ほか
第7回理事会	10月17日(金)	次期人事、研究部オープンセミナーについて、ほか
第8回理事会	11月16日(日)	次期人事、SNSの運用、スターターについて、ほか
第9回理事会	12月19日(金)	研究グループ編成、『語研ジャーナル』の販売、来年度研究大会について、ほか (2026年)
第10回理事会	1月18日(日)	来年度事業計画および予算、講習会受講料等改訂、研修室使用について、ほか
第11回理事会	2月22日(日)	来年度事業計画および予算、Zoomアカウントについて、ほか
第12回理事会	3月1日(日)	研究大会交通費補助、来年度事業計画および予算について、ほか

【評議員会】※ 対面及び zoom によるオンラインの併用で開催した。

	開催日	主な議事事項
第1回評議員会	2025 年 6 月 22 日	2025 年度事業報告、2025 年度計算書類（決算） 2025 年度公益目的支出計画実施報告
第2回評議員会	2026 年 3 月 29 日	2026 年度事業計画、2026 年度予算

4. 収支及び正味財産の増減の状況並びに財産の状態の推移

（単位：千円）

事業年度	令和 4 年	令和 5 年	令和 6 年	令和 7 年
経常収益合計	6,182	4,869	4,345	5,443
経常費用合計	4,948	5,965	5,191	4,929
当期経常増減額	1,233	▲ 1,095	▲ 846	513
当期経常外増減額	—	—	—	—
当期一般正味財産増減額	1,233	▲ 1,095	▲ 846	513
資産合計	56,018	55,062	54,364	55,098
負債合計	1,110	1,250	1,398	1,618
正味財産	54,907	53,812	52,965	53,479

III 法人の課題

定款に定める法人の目的に則り、その事業をより一層充実・拡大したものにしていく必要がある。

IV 株式保有している場合の概要

（該当事項はない）

V 決算期後に生じた法人の状況に関する重要な事実

（該当事項はない）

附属明細書（事業報告関係）

該当事項はありません。